

Principal Correspondence

今年も綱領を中心に教育活動を



2018年になりました。戌年は良い事がたくさんある年といわれますが、リリーベール小学校は他力本願でなく、綱領どおり「自立・創造・リーダーシップ」を校訓に、今年も教育活動にまい進して参ります。そこでこの三つの校訓について・・・。

「自立」

まさに自力本願。「自分がおかれている状況は、良し悪し全て、社会や他人のせいではなく、今まで自分のしてきたことの結果であり、自分の将来は自分で責任を持つ」という心構えを育てます（まだ子どもなのでそうした大人を目指します）。

「創造性」

世界が求める21世紀に生きる人に必要な能力。21世紀型学力ともいわれ、「課題発見」「課題設定」「課題解決」の一連の能力が必要です。そのベースには幼少期の豊かな感性教育が不可欠です。当校ならではの体験教育で感動を生み感性を育てて参ります。

「リーダーシップ」

人は社会との関わり無しに生きてはいけません。社会の幸せなしに自分の幸せもありません。その社会（組織）が烏合の衆では困ります。良きリーダーシップがある組織は公正で効率的です。

社会に貢献できる人材育成をしたい。本気でそう願っています。そのためには人の痛みのわかる公正な人にならねばなりません。我が校独自のリーダーシップ教育はそれを目指します。



残り少ない今学期。
ラストスパートでさらに充実させて参ります。

Principal Correspondence

人望のある人に育てましょう

アルガンとカユックというフランスの経済学者の研究



「一般的に他人は信用できる。」とと思っている国民の割合が高い国のほうが、経済成長率が高いというデータがありました。さらに「金持ちのほうが人を信用する」という研究成果もあります。どうやら「清く貧しく美しく」という言葉は、物のない時代の日本では生き方の理想であっても、「衣食足りて礼節をなす。」ということわざの方が現代では真実に近いようです。

幸福度

とはいえ、お金は万能ではなく、アメリカの研究では年収7万5千ドル（約800万円）になるまでは幸福度が上がり続けるがそれ以上の年収では幸福度は変わらないと言われています（幸せのメカニズム・前野隆司・講談社現代新書）。

結局、人間の幸せは脳科学的には「愛情空間」や「友情空間」で、みんなから認知された時なのだとのことです（残酷な世界で生き残るたった一つの方法・橘玲・幻冬舎）。お子様が一人の人間として、将来家庭に恵まれ、良き友人に信頼され、良い仕事仲間とその成果を認められてなお「生活するために困らないちょっと多くのお金」があれば幸せなのだと思います。



人望



仲間に認められるには「人望=人間的魅力」が必要です。人望とは「その人が困っているときに手を差し伸べたいと思える人」と作家の司馬良太郎氏は述べています。また「人に親切にするとという躰を受けて育った子どもはそうでない子どもより大人になって平均30万円所得が高い」という研究もあります（競争社会の歩き方・大竹文雄・中公新書）。

「異年齢の子どもたちの集団空間」「愛情空間」「友情空間」を目指し「心と人望」を育て「人間性知能」を伸ばしていきたいと考えます。

